

縣報

號

外

明治三十三年七月一日

和歌山縣

○縣令

○和歌山縣令第五十四號

清涼飲料水營業取締規則施行細則別紙ノ通相定ム

明治三十三年七月一日

和歌山縣知事

小倉

久

(別紙)

清涼飲料水營業取締規則施行細則

第一條 清涼飲料水營業取締規則第二條ニ依リ清涼飲料水製造ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ

左ノ各號ヲ具スヘシ

一 清涼飲料水ノ種類

二 製造場ノ位置及其ノ坪數

三 設計及其ノ圖面

四 竣工ノ年月日

五 製造場周圍ノ地形建物等ヲ見得ヘキ地圖

六 製造用器械及其ノ名稱畧圖並個數

七 用水(鑿泉汲取場ヲ含ム以下做之)ノ位置及其ノ井泉ノ構造

八 製造ノ原料及其ノ方法

第二條 清涼飲料水製造營業ノ認可ヲ受ケタル後前條ノ各號中ヲ變更セムトスルトキハ知

縣報 號外

明治三十三年七月一日

一

事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 清涼飲料水製造場ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 製造場ノ内部ハ板張トシ地盤ハ不滲透質ノ材料(石、煉瓦、漆喰等ノ類以下倣之)ニテ敷設スヘシ

敷設スヘシ

二 氣罐、氣機ヲ使用スル製造場ニ在リテハ其ノ室ヲ異ニスヘシ

三 製造場ニハ不滲透質ノ材料ニテ排水溝ヲ設ケ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

四 用水汲取場ハ堅固ナル側ヲ用ヒ汚水ノ混入ヲ防クヘシ

第四條 工事落成シタルトキハ知事ニ届出檢査ヲ受クヘシ其ノ檢査ヲ受ケタル後ニ非ラサレハ使用スルコトヲ得ス

レハ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ニシテ自ラ管理スル能ハサル場合ハ管理人ヲ置クヘシ

前項ノ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名及理由ヲ知事ニ届出フヘシ廢止シタルトキ

亦同シ

第六條 清涼飲料水營業者ニシテ其ノ住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業、休業、就業シタルトキ

ハ五日以内ニ知事ニ届出ヘシ

死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 清涼飲料水營業者ニシテ家族雇人ニ行商セシムルトキハ營業者ノ住所氏名ヲ記載

シタル証票ヲ携帯セシムヘシ

第八條 清涼飲料水營業者又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ニシテ清涼飲料水營業取締規則第八條ノ

疾病ニ罹リタルトキハ其ノ病名、家族雇人ナルトキハ病名氏名ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條 家族、雇人ヲシテ清涼飲料水ノ取扱ヲナサシメ及廢止シタルトキハ其ノ氏名ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 清涼飲料水容器ニ貼用スヘキ票紙ハ他人ニ交付スヘカラス

第十一條 汽罐汽機ヲ使用スル製造場ニ於テハ汽罐汽機ニ就テハ其ノ取締規則ヲ遵守スヘシ

第十二條 清涼飲料水ノ請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ種類ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十三條 本則ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十四條 第二條第四條乃至第十條及第十二條ニ違背シタル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

附則
第十五條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年

七月一日ヨリ施行ス

第十六條 從前營業者ニシテ現ニ其ノ業ヲ營ミ繼續營業セムトスル者ノ既設製造場ノ構造本則ニ適合セサルモノハ明治三十三年十月三十一日迄ニ改築スヘシ但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年八月三十一日迄ニ改築スヘシ

○和歌山縣令第五十五號

牛乳營業取締規則施行細則別紙ノ通相定ム

明治三十三年七月一日

和歌山縣知事

小倉久

(別紙)

牛乳營業取締規則施行細則

第一條 牛乳營業取締規則第四條ニ依リ牛乳搾取營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號

ヲ具スヘシ

一 位置及其ノ坪數

二 設計及其ノ圖面

三 竣工ノ年月日

四 位置及其ノ四隣ノ地形建物等ヲ見得ヘキ略圖

五 牛乳、種牡牛、牘牛ノ別及其ノ頭數

第二條 牛舎搾取所ノ増築、改築又ハ移轉ヲ爲サムトスルトキハ前條ノ手續ニ依リ知事ノ

認可ヲ受シヘシ

第三條 牛舎、搾取所、及運動場ハ人家稠密ノ場所ニ建設スルコトヲ得ス

第四條 牛舎搾取所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 牛舎及搾取所ノ周圍ニハ塙塙ヲ設クヘシ

二 運動場ハ牛一頭ニ付五坪以上トシ周圍ニハ塙塙ヲ設ケ且排水ノ方法ヲ設クヘシ但

土地ノ狀況ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケケ制限坪數ヲ減少スルコトヲ得

三 牛舎ハ隣地境界ヲ距ルコト三間以上運動場ハ同二間以上タルヘシ但シ隣地ニ家屋ナ

- キ場所ニ在リテハ本號ノ距離ヲ要セサルコトアルヘシ
- 四 牛舎ハ土臺ヨリ上七八寸ノ處ニ通氣孔ヲ設ケ屋ノ棟ニハ穢氣抜ヲ設クヘシ但シ無双窓等ヲ以テ通氣孔ニ換ユルモ妨ナシ
- 五 搾乳所ハ別棟トシ地盤、内部ノ周圍及屋根裏ハ板ヲ張り適宜ノ窓ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ牛舎ヲ區劃シ搾乳所ニ充ツルコトヲ得
- 六 牛舎ハ一頭毎ニ幅四尺以上奥行八尺以上ノ室ニ區劃シ前面ニ五尺以上ノ空地ヲ存スヘシ
- 七 牛室ノ地盤ハ不滲透質ノ材料(石、煉瓦、漆喰、灰ノ類以下倣之)又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設シ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ但シ孕牛、犢牛ノ牛舎ハ勾配ヲ付セサルコトヲ得
- 八 尿樋ハ不滲透質ノ材料ニテ作り舎外ニ尿水ノ流出スル様勾配ヲ付スヘシ
- 九 尿受器ハ内外ニ釉藥ヲ施セル甕又ハ不滲透質ノ材料ニテ牛舎ヨリ三尺以外ノ地ニ設ケ適宜ノ覆蓋ヲ爲シ其ノ周圍ハ地盤ヨリ高クスヘシ
- 十 不潔物溜ハ不滲透質ノ材料ニテ牛舎ヨリ二間以外ノ地ニ設ケ掃除口ニハ挿蓋ヲ用ヒ適宜ノ雨除ヲ爲スヘシ但シ汚物掃除法施行區域内ニ在リテハ汚物掃除ニ關スル規定ニ從フヘシ
- 第五條 牛乳營業取締規則第四條ニ依リ乳製品製造營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ヲ具スヘシ
- 一 位置及其ノ坪數

二設計及其ノ圖面

三竣工ノ年月日

四位置及其ノ四隣ノ地形建物等ヲ見得ヘキ略圖

五乳製品ノ種類及其ノ製造ノ方法

第六條 製造所ノ増築、改築又ハ移轉ヲ爲サムトアルトキハ前條ノ手續ニ依リ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 乳製品製造場ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一製造場地盤ハ不透質ノ材料ニテ敷設シ又ハ板張トナシ周圍ハ鐵葉又ハ板張トシ適宜ノ位置ニ窓ヲ設クヘシ

二貯乳場ハ其ノ周圍ハ硝子張トシ天井ヲ設クヘシ

第八條 工事落成シタルトキハ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ乳牛、乳牛用ニ充ツヘキ種牡牛及牝牛ト同一ノ場所ニ於テ他ノ牛ヲ飼畜スヘカラス

第十條 牛乳營業者ハ牛籍簿ヲ備ヘ豫メ所轄警察官署ノ捺印ヲ受ケ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一賣買交換授受及死亡ノ年月日

二番號

三種類及毛色

四年齡

五產地

六病歴

第十一條 牛乳營業者ノ牛ニシテ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ耳朵ニ符號ヲ記セル耳環ヲ付シ其ノ治癒ノ見込ナキモノニハ角ニ廢印ヲ烙記ス

第十二條 牛乳營業者ニシテ販賣ノ用ニ供スル牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中三、〇分以上脱脂乳ニ在リテハ百分中〇、五分以上トス

第十三條 飼牛ハ日々清潔ニ梳拭シ且適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ

第十四條 牛乳搾取者ハ清潔ナル上衣ヲ着シ牛ノ乳房ヲ洗滌シタル後搾取ニ從事スヘシ

第十五條 牛乳容器、量器ハ使用前必ス百倍ノ曹達水ニテ洗滌スヘシ

第十六條 牛乳營業者ニシテ自ラ管理スル能ハサル場合ハ管理人ヲ置クヘシ

前項ノ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名及理由ヲ二日以内ニ知事ニ届出ヘシ廢止シタルトキ亦同シ

第十七條 牛乳營業者ニシテ其ノ住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業、休業、就業シタルトキハ五日以内ニ知事ニ届出ヘシ

死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
第十八條 牛乳配達人ニハ左ノ證票ヲ携帯セシムヘシ

表 牛 乳 配 達 人

裏

營業者

請賣者ナルトキハ搾取營業者ノ住所氏名ヲモ記ス

住 所 氏 名

第十九條 牛乳、乳製品ノ請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十條 牛乳營業者ハ左記第一號第二號ハ二日以内ニ知事ニ第三號乃至第五號ハ五日以

内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一 乳牛、乳牛用ニ充ツヘキ種牝牛及犢牛ニ異動ヲ生シタルトキ但シ死亡ハ獸醫ノ診斷書添付ヲ要ス

二 乳牛、乳牛用ニ充ツヘキ種牝牛及犢牛ニシテ疾病ニ罹リ又ハ全瘵シ及牛乳中ニ移行スヘキ毒藥、劇藥ヲ服用セシメ又ハ其服用ヲ廢止スル通告ヲ受ケタルトキ但シ獸醫ノ診斷書添付ヲ要ス

三 分娩シタルトキ

四 家族又ハ雇人ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ及廢止シタルトキハ其ノ氏名

五 牛乳營業者又ハ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲ス者ニシテ牛乳營業取締規則第十二條ノ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ病名家族雇人ナルトキハ病名氏名

第二十一條 牛乳營業者ハ一月七月兩度ニ搾取頭數、乳汁販賣石高、乳汁賣上金高、乳汁需用戶數又ハ乳製品製造高販賣高及賣上金高ヲ月別ニ取調知事ニ届出ヘシ

第二十二條 本則ニ依リ知事ニ差出ス書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十三條 第二條第六條第八條乃至第十條及第十三條乃至第二十條ニ違背シタル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

附則

第二十四條 従前ノ營業者ニシテ現ニ其ノ業ヲ營ミ繼續營業セムトスル者ノ既設ノ牛舎其

ノ他ノ構造本則ニ適合セサルモノハ一ケ年以内ニ改築スヘシ

第二十五條 明治三十年一月縣令第十三號ハ牛乳ニ關シテハ適用セス

○和歌山縣令第五十六號

獸醫ニシテ牛乳營業者ノ飼養スル乳牛治療上乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥ヲ服用セシムルト

キ又ハ廢止シタルトキハ其都度牛乳營業者ニ通告スヘシ

前項ノ通告爲サル者又ハ虚偽ノ通告ヲ爲シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年七月一日

和歌山縣知事

小倉久

明治三十三年六月三十日印刷
明治三十三年七月一日發行

和歌山縣

和歌山市九番丁九番地

前川初之助

和歌山市十二番丁十三番地

和歌山印刷株式會社

印刷人

印刷所

縣報 號外

明治三十三年七月一日

十終